

き、本町への流入を軽減できると思っています。

③また、佐賀県が設置した「内水対策プロジェクト」でも、下瀉排水機場の再度の浸水を防ぐための防水壁の設置や、排水能力の増強、遠隔操作の導入などを要望していくよう査定に向け準備を進めており、引き続き地元の情報や踏まえた意見が反映されるよう要望をしていきます。

④今後の進捗状況については、適宜、広報紙や議会冒頭、あるいは、説明会をする必要がある場合は、区長会と協議の上、適時、情報提供をしていきます。

⑤また「特区要望」については、可能なのか、関連機関に問い合わせます。



大町の高齢化率が40%を超え今後の取組みについて

武村妃呂子

議員 ①老友会への加入率は29%、平均年齢80歳の現状を考えると従来通りの補助金交付だけでなく魅力づくりの協議が必要。社会教育の出番では、

②健康寿命を延ばすために生活習慣病(糖尿病・高血圧)の早期発見が必要。集団健診よりも個別健診を推奨し「かかりつけ医」を持つよう働きかけることは可能か。

③スポーツセンターが閉鎖され、高齢者の皆さんは体力作りに苦慮されている。公民館(大ホールや図書館)などの公共施設を利用しやすくできないか。他の市町のモデルとなるような、高齢者の皆さんが元気で安心して暮らせる施策を考えてほしい。

以上3点について問う。

町長 ①令和3年4月1日現在、大町町老友クラブ連合会への加入率は29%で、平均年齢79.7歳となっています。佐賀県の平均加入率20.9%を上回っていますが、会員数の減少、高齢化が進んでいます。

このような中でも「老人趣味の作品展」、「各種講座」の開催や「清掃美化活動」など、高齢者の生きがいや健康づくりを推進し、明るい長寿社会の実現のため、各種活動を展開されています。

明けて早々、町政懇談会も計画されており、意見交換を通して、引き続き、活動事業費補助金、活動助成金などの財政支援を継続していくことが必要と考えています。

②次に、生活習慣病の重症化を防ぎ健康寿命を延伸するためには、子どもから高齢者までのあらゆる世代が、年齢や状態に応じて、さまざまな疾患を横断的に予防することが必要だと言われています。

町としても各課が連携して取り組むことが重要と考えており、各種検診はもちろんのこと、各地区の分館行事などに生涯学習・介護予防教室等の機会の確保に努めていきます。

教育長 ③高齢者の生涯学習の振興については、教育委員会が、文化連盟・スポーツ協会・遊ゆうスポーツクラブ所属各団体の活動支援を継続的に行っていきます。それと並

行して、公民館主催講座を開講し高齢者への学びの機会の提供を充実していきます。

昨年度と今年度は、町民ニーズを踏まえ、美文字講座を開講しました。平成30年度には「相続」をテーマに、老友クラブ連合会役員会や各分館に出向き、出前講座という形で7回開講し、約150人に受講していただき好評を得ました。

今後も、高齢者のニーズをしっかりと把握しながら、生涯学習の機会の確保に努力していきます。

HPVワクチンの接種について

議員 令和4年4月より子宮頸がんワクチン接種が勧奨される予定である。ワクチンに関する理解を深めるため、接種対象の児童・生徒とその保護者へ専門医の話を聴く場を設けられないか。

子育て・健康課長 HPVワクチン接種は、平成22年11月26日からワクチン接種緊急促進事業として、中学1年生から高校1年生女子を対象に開始され、大町町においては、平成22年11月から平成23年3月

まで中学生女子に対して集団接種を実施し、合計159人に接種を行いました。

平成22年度は高校1年生に、平成23年度からは全対象者を医療機関での個別接種で実施していますが、これまで副反応についての報告はありません。

また、令和3年11月26日付で、平成25年度の積極的勧奨を差し控える通知が廃止されており、個別の勧奨については、接種体制の準備を進め、基本的には令和4年4月から順次実施することとなっています。

今後は、町としても、国や県、近隣市町の動きを注視し、情報提供については、教育委員会とも連携をとりながら対応をしていきたいと考えています。

